

第1回 流総計画再構築検討会 議事要旨

日時 平成25年8月27日 15:30～17:20

場所 日本下水道協会大会議室

1. 環境基準達成と季節別・地域別放流水質について

- 大阪湾は、高度処理が一定程度進み、かつ、NPの環境基準が達成しているため、さらなる高度処理を進めにくい。流総計画の負荷量算定やシミュレーションに課題があるのではないか。短い間隔で実態に合った見直しを行うことが必要ではないか。
- 漁業関係者から冬場に栄養塩を供給してほしいとの要望がある。環境基準の達成に加え、放流先への影響にも配慮すべきだが、年平均だけの計算では評価が難しい。
- 伊勢湾・三河湾のNPは半分程度の達成率であるが、三河湾の漁業関係者から冬場栄養塩が足りないとの意見がある。環境部局や漁業関係者も含めた幅広い議論が必要である。
- 必要に応じて栄養塩の供給を流総で盛り込むのは有効と考える。
- 環境省でも環境基準未達成と栄養塩不足への対応について内部で議論したい。
- 播磨灘でもノリ養殖関連で季節別運転を実施中である。ノリ以外にも水処理費用の削減等のメリットができるように、運転方法について検討してほしい。

2. 許容負荷量の配分について

- 負荷量をコントロールしやすい生活系の許容負荷量が小さくなりがちだが、面源系の負荷が大きく影響するため、他部局との議論が重要である。
- 下水処理水質はかなり良くなってきているが、環境基準未達成や達成してもそれ以上下がらない河川がある。下水道の負荷以外の要因も大きいと思われる。
- 流入水量及び水質の関係から実績処理水質が良好な場合があるが、計画としての水質の担保はないので、指針改定の際に注意が必要である。

3. 処理区統廃合について

- 経費回収率に優れている流域下水道等へ小規模処理区を統合する方向で広域的に調整している秋田県のように、県のリーダーシップが重要である。
- 維持管理費等を踏まえ、農集から流域下水道への統合の要望が出ている。

4. 流総計画の柔軟性・簡素化について

- 隣接する流域の流総計画が縛りになっている現状があるため、フレキシブルに動ける計画としてほしい。
- 埼玉県では段階的・高度処理を実施中で、Mid-term流総中で評価してほしい。
- フレキシブルに様々な選択肢から選べる制度が求められている。
- 段階的・高度処理とコスト削減について、本検討会で検討してほしい。

■ 地方部で既に環境基準が概ね達成されている地域で整備計画を変更する場合は解析不要とするなど、簡素化について目に見える形で整理してほしい。

■ 簡素化という点から、負荷量が変わらない場合は処理区統合しても大幅な流総見直しは必要ない等の運用も考えてほしい。

5. 技術開発について

■ 現状施設を活用した高度処理レベルの確保について、技術開発を進めている。流総指針で位置づけられると技術開発が進みやすい。

■ 水処理・汚泥処理含めたエネルギー、温室効果ガス削減、コスト削減の検討をしており、それら技術を反映した流総指針改定が望ましい。

6. 都道府県構想との調整

■ 広域化、施設の統合、中期の目標等都道府県構想でも同様の議論が行われており、流総と都道府県構想との分担、位置づけを整理する必要がある。見直し時期を重ねたり、データを共有したり等の効率化が必要である。

7. 今後の進め方

■ 第2回検討会に向けては、これら意見を踏まえて、モデル地区での検討により具体的な課題を確認した上で、流総指針の素案を作成し、検討会にて議論していただく予定である。

■ 国土交通省では、流総指針の改定案を受けて、必要な省令改正の検討を行う予定である。